



報道関係者各位

2017年7月12日

株式会社ゼネラルパートナーズ

障害は結婚のハードルになる？

約 500 人の障害当事者に聞いた結婚意識調査

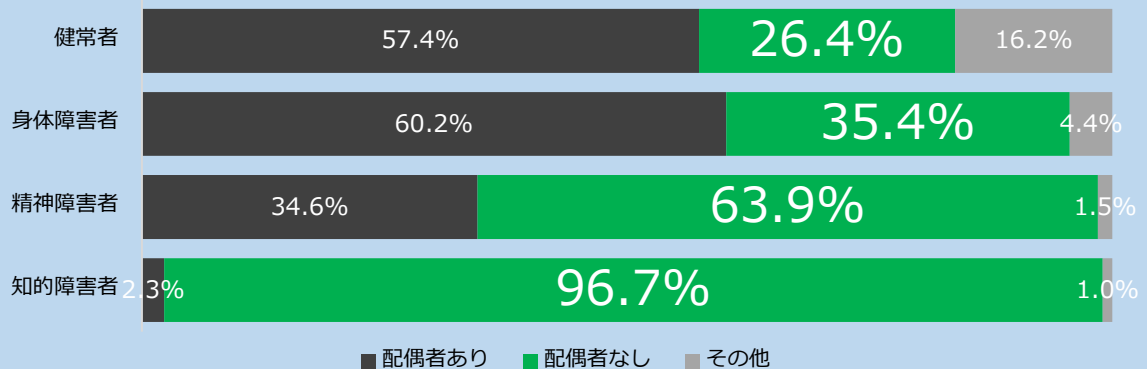
障害者の就労支援を中心にソーシャルビジネスを展開する株式会社ゼネラルパートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：進藤均）は、障害者のライフスタイルへの関心が高まる中、運営する調査・研究機関『障がい者総合研究所』にて、障害者の結婚についてのアンケート調査を行いました。

調査の背景

内閣府の発行している『平成 25 年度 障害者白書』によれば、配偶者がいない割合は、身体障害者が約 35%、精神障害者が約 64%、知的障害者が約 97%と、健常者の約 26%と比べて非常に高くなっています。

また、世の中に結婚に関する調査は数多くありますが、障害者にスポットをあてた調査はこれまでほとんど実施されていませんでした。そこで、障害者の結婚の実態や、その意識について明らかにするため、アンケートを実施しました。

<健常者・障害者別の配偶者の有無>



※内閣府『平成 25 年度 障害者白書』、統計局『平成 27 年 国勢調査』を元に作成

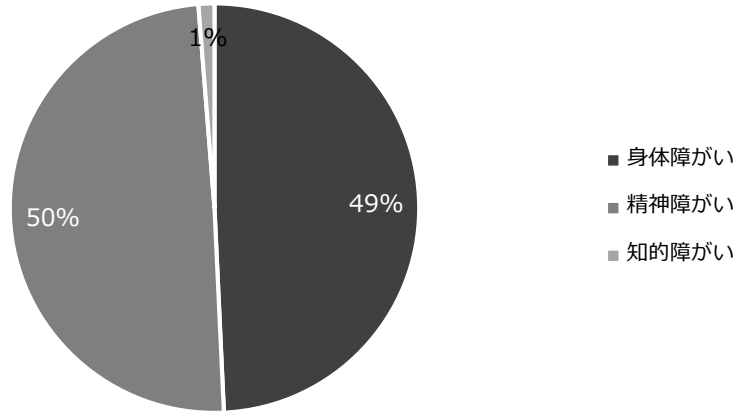
調査概要

対象：障害者 478 名

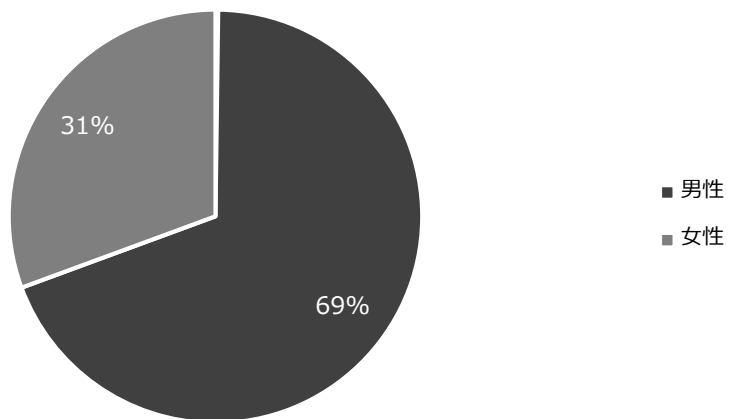
調査期間：2017 年 6 月 9 日～2017 年 6 月 14 日

調査方法：インターネット調査

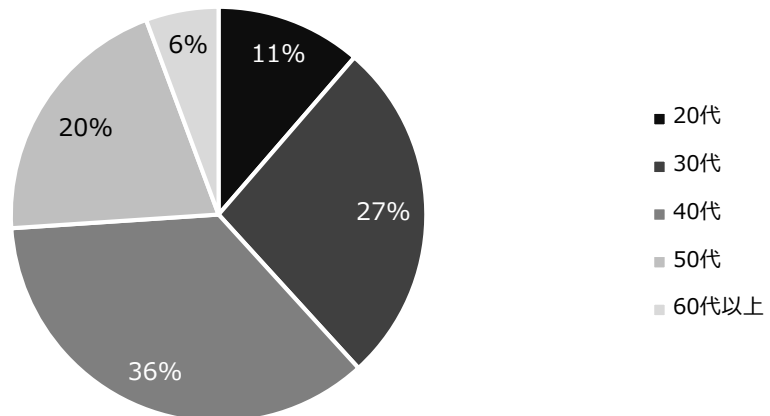
障害区分



性別



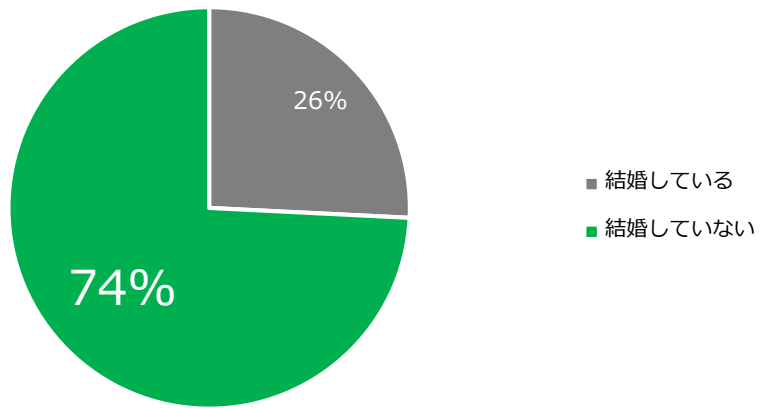
年代



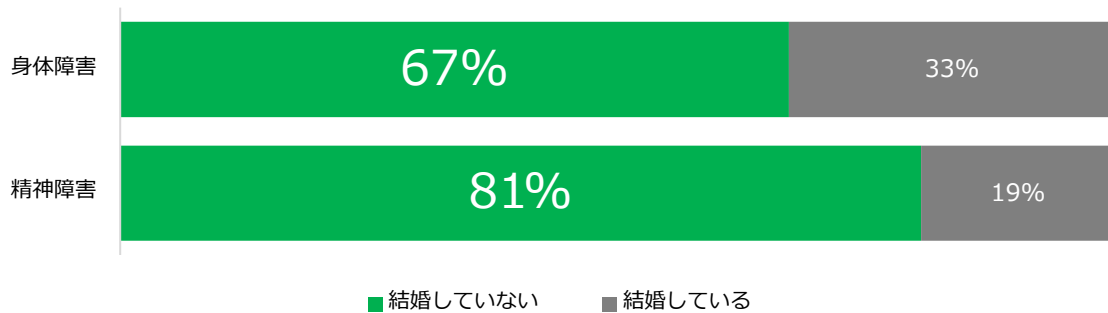
調査結果

結婚していない人の割合は 74%、
そのうち、「いずれ結婚するつもり」という人が 66%

現在、ご結婚されていますか？



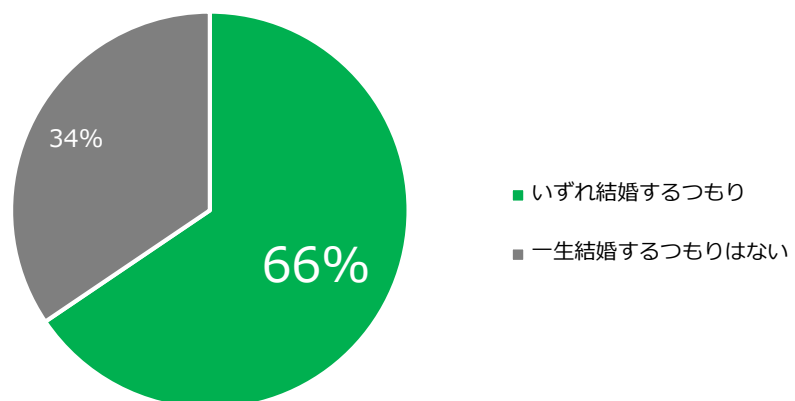
<障害別での比較>



※有効回答者数の多い「身体障害者」「精神障害者」のみで比較

ご自身の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは次のうち、どちらに該当していますか？

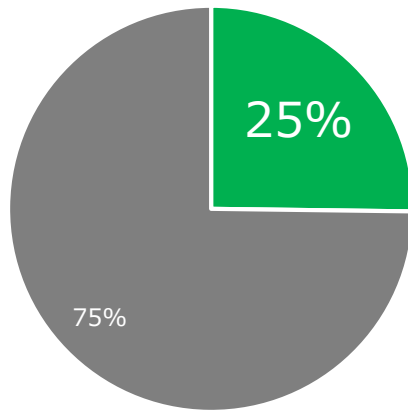
(結婚していない方のみ回答)



障害を支障に感じる割合は、結婚を「している人」「していない人」で大きな開き

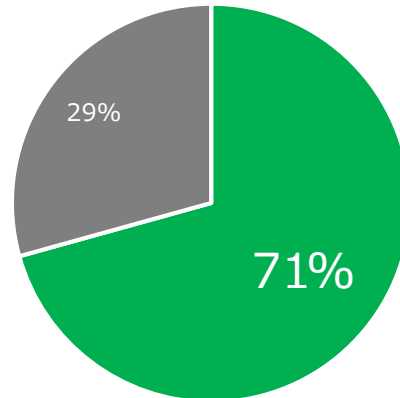
ご結婚を決断、または結婚生活を送る上で、あなたの障害は何らかの支障になりましたか？ もしくはなると思いませんか？

結婚している人



- 支障になった (なっている)
- 支障にならなかった (なっていない)

結婚していない人



- 支障になると思う
- 支障にはならないと思う

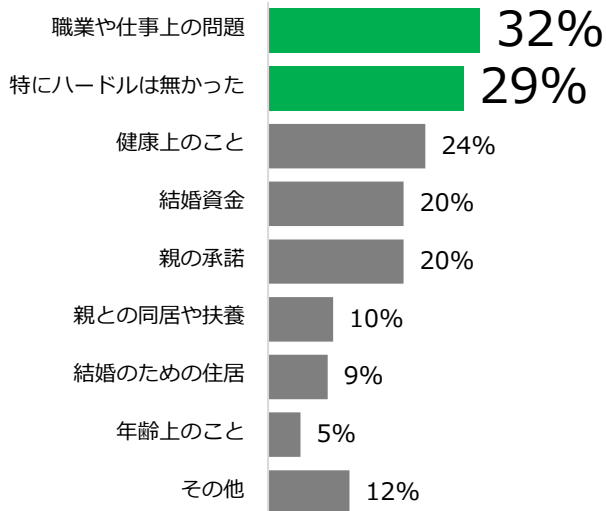
■ フリーワード（具体的な支障の事例）

- ・聴覚障害のためコミュニケーションが健常者と比べて劣る。聞き返すことが相手にとって苦痛になるのではないかと（20代/男性/身体障害）
- ・行動が制限されるため、私ではなく健常者の方とお付き合いしたほうが、相手の幸せになるのではないかと考え込んでしまう（30代/男性/身体障害）
- ・空気が読めない。身なりを気にしないなどを容認してくれないと続けられないと思う（30代/女性/精神障害）
- ・発達障害なので相手に理解されない。遺伝のことなども考えると相手や子孫にこの障害を押し付けることが良いとは思えない（40代/男性/精神障害）
- ・自分は発達障害でコミュニケーションに問題があり、知らず知らずのうちに相手を傷つける場合がある（30代/男性/精神障害）
- ・対人関係において勘違いや不愉快にさせてしまうことが多く、交際相手にも同じことをしてしまうと思うので（40代/男性/精神障害）
- ・仮に誰かと付き合っても障害をカミングアウトすれば別れに繋がらそう。遺伝するかもしれない障害だから結婚はしてくれなさそう。子供がいない人を探すしかない（20代/女性/精神障害）
- ・イメージ的に感情の起伏や落ち込みが激しいのではないかとと思われること（40代/男性/精神障害）
- ・対人恐怖により外出を今は避けたいなど、理解がないと付き合うまで至らないと思う（40代/男性/精神障害）
- ・先の約束をしても、その日の体調を見ないと約束を守れるか分からない（30代/男性/精神障害）
- ・お相手を養っていきけるだけの収入を確保できない（40代/男性/精神障害）
- ・体調を崩しやすく、自分に合った仕事がなかなか無い。経済的なことや、精神・肉体面で不安がある（40代/男性/精神障害）
- ・自分の障害で、好きになった人の人生にハンディを加えたくないから。また、自分の収入が低いから、結婚を考えた交際は躊躇するから（30代/男性/精神障害）
- ・すごい自分を飾るところがあるので、一緒にいる時間が長くなると、ボロが出るから（30代/男性/精神障害）
- ・子供を産めない（30代/女性/身体障害）
- ・一般の車では無理なので福祉車両になる。セックスの際に自分が骨折する危険がある（40代/女性/身体障害）
- ・障害の理由を伝えるために、病気について話をしたら、無理と言われた（30代/女性/身体障害）
- ・再発して仕事ができなくなるかもしれない、最悪は早期に死んでしまうかもしれないから（40代/男性/身体障害）

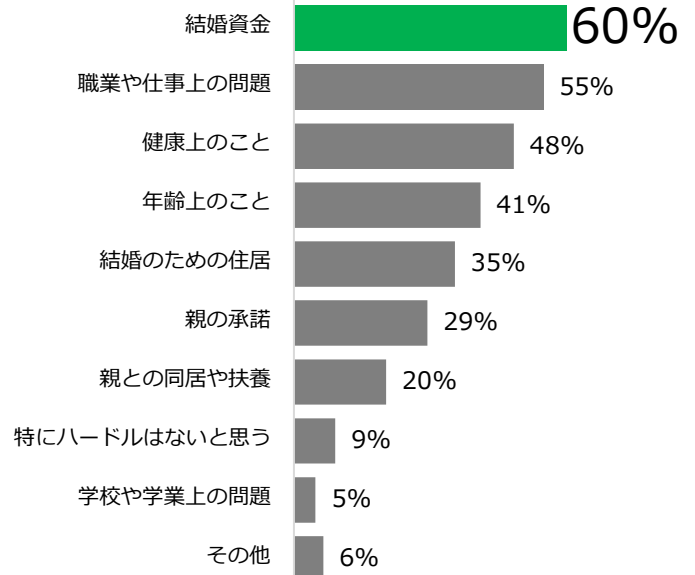
結婚していない人にとって、障害以外で最も大きなハードルは「結婚資金」

ご結婚する際に障害以外の点でハードルになると思うことは、ありましたか？【複数回答可能】

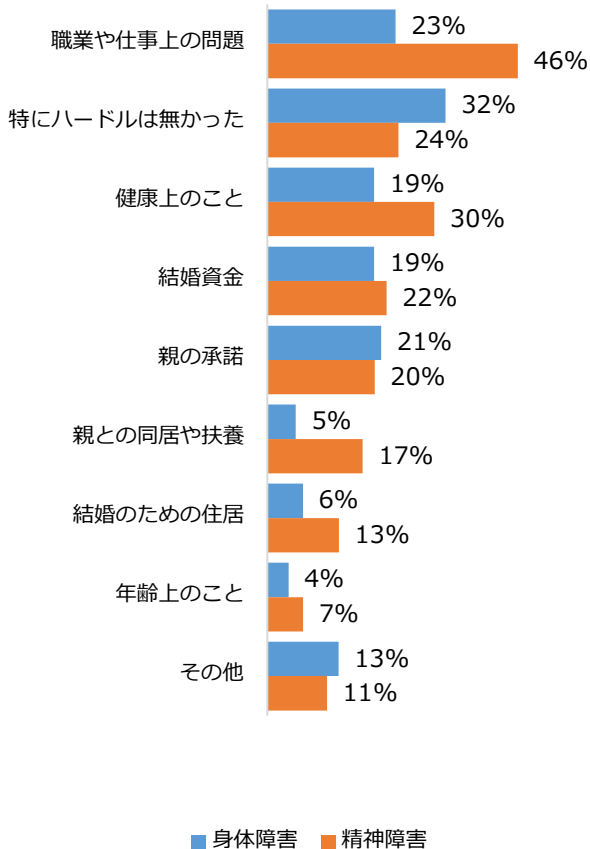
結婚している人



結婚していない人

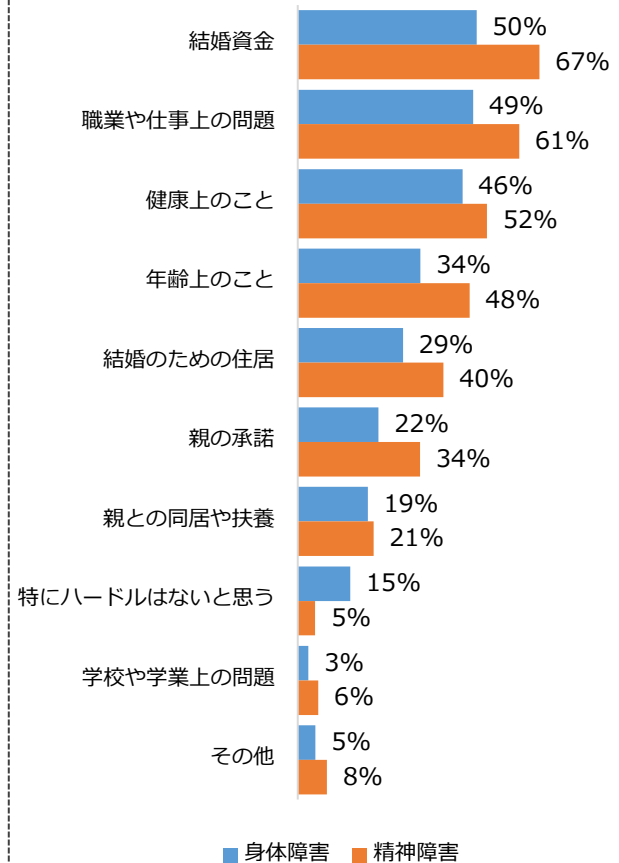


<障害別での比較>



※有効回答者数の多い「身体障害者」「精神障害者」のみで比較

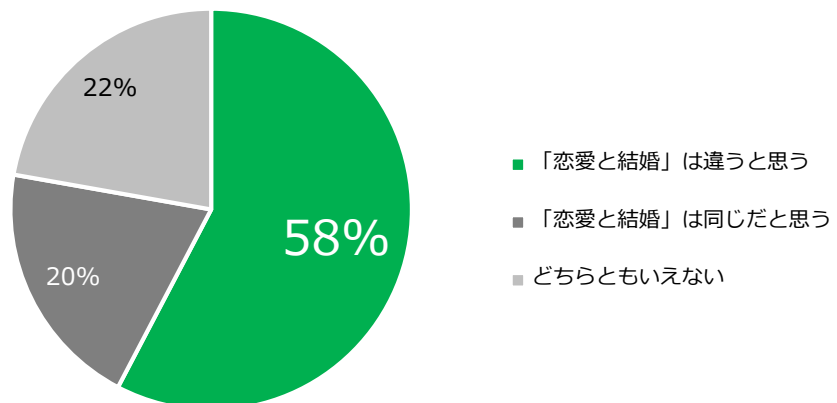
<障害別での比較>



※有効回答者数の多い「身体障害者」「精神障害者」のみで比較

恋愛と結婚は「違う」と考える人が過半数

あなたの恋愛と結婚に対するお考えは、次のうちどれですか？



■ フリーワード（恋愛と結婚が違うと思う理由）

- ・ 恋愛は自立していなくてもできるし責任を伴わない。結婚は自立していくことが必要で、相手に対して責任が伴う（男性/30代/身体障害）
- ・ 恋愛はただ好きだけで何とかなる。結婚には生活すべてに責任がある（男性/40代/身体障害）
- ・ 恋愛はその時だけ楽しかったら良いという感覚。結婚は高齢になってからも付き合うので、ある程度責任が必要。障害者に対してそこまで責任を持ってくれる人は中々いないと思う（女性/40代/身体障害）
- ・ 結婚するのなら私の病気を理解して結婚して欲しい。恋愛中の場合は、まだ伝えなくても良いと思っている（男性/40代/身体障害）
- ・ 結婚は相手と一生を共にし合うことだから、恋愛では見えてない負担が生じる（男性/50代以上/身体障害）
- ・ 結婚すると、自分が決して見られたくない所まで見られる気がする。体調が優れなくても家事をしなければならないなど、家庭内の負担が独身の頃よりも多くなると思う（女性/30代/精神障害）
- ・ 障害や病気について、相手だけでなく、相手の親兄弟の理解や、時にはサポートが必要となる点。また、いくら理解があっても生活で実際に不便を感じると結婚生活や妻としての私に不満が出てくると思うので、結婚と恋愛は違うと思う（女性/40代/精神障害）
- ・ 結婚には責任が伴い、自分とパートナーだけの感情的な問題だけではなく、パートナーの家族も関わってくる（女性/40代/身体障害）
- ・ 結婚となると恋愛関係のときとは違い、双方の家族などの付き合いが生じる。私が不調で休みたいときでも、家族が遊びに来たり、面倒をみなければならないこともある。また、お互いの仕事や健康状態が安定して、金銭かつ生活全般に問題がないときは良いが、配偶者の状況が結婚前後で変化した場合には、関係が変わることも…。実際、とかく人生が上手くいかないことについて、私の障害を理由にされたりもした。恋愛であれば、別れてしまえばそれで済むが、結婚となると恋愛のように簡単にはいかない（女性/40代/身体障害）

<障がい者総合研究所 所長 中山伸大からのコメント>



今回の調査は、障害者の結婚に関する意識や実態を明らかにすることを目的に実施しました。

調査対象者のうち、結婚していない人の割合は74%。この方々に今後の結婚の意思を尋ねたところ、66%は「いずれ結婚するつもり」、34%は「一生結婚するつもりはない」と回答しています。一般向けに実施された同様の調査（国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」）では、「一生結婚するつもりはない」と回答した人の割合は2015年時点で男性12%、女性8%であり、今回の調査対象者である障害者の34%との間に、大きな開きが見られました。

そこで、障害者の3割以上が結婚を希望しない背景について考えていきたいと思います。「結婚を決断、または結婚生活を送る上で、障害を支障に感じるか」という質問に対しては、結婚している人と結婚していない人で大きな差が見られました。結婚している人では75%が「支障にならない」と回答しているのに対し、結婚していない人では29%に留まります。逆説的な見方をすれば、「結婚前に支障を感じなかったため結婚できた」とも言えますが、もう一方では「結婚後に支障とならないようなことに対しても、結婚していない人は支障だと感じ、結婚を躊躇している」とも推測できます。

さらに、「障害以外の点で結婚のハードルになること」についても質問したところ、ここでも結婚している人と結婚していない人で傾向に違いが見られました。結婚していない人のうち60%が「結婚資金」、55%が「職業や仕事上の問題」を結婚へのハードルとして挙げています。これらは経済的な問題が結婚への障壁となっていると言え、障害者の労働賃金の低さが背景にあると考えられます。一方で、結婚している人は「職業や仕事上の問題」を挙げる人が多いものの32%と数値は下がり、29%は「特にハードルはなかった」と回答しています。

最後の設問では、「恋愛と結婚は違うと思うか、同じだと思うか」を尋ねました。その結果、「違うと思う」という人が過半数を占め、恋愛と結婚を別物と捉えている人が多いことが分かりました。別物とする理由では、恋愛は将来を考えず楽しむものであるが、結婚は責任をもって関係性を継続する必要があると捉えているようです。このような結婚観も、結婚への心理的な障壁になっていると言えるでしょう。

※本調査結果の引用の際は、「株式会社ゼネラルパートナーズ 障がい者総合研究所調べ」とクレジットを明記ください

「株式会社ゼネラルパートナーズについて」

障害者専門の人材紹介会社として、2003年に創業。その後「就職・転職サイト」「障害別の教育・研修事業」「就労困難な障害者による農業生産事業」など、幅広い事業を展開している。2016年10月には障害者アスリートなどにも支援対象を拡大。これまで就職・転職を実現した障害者の数は5000人以上に及ぶ。「誰もが自分らしくワクワクする人生」というビジョンのもと、今後は障害者に限らず、不登校、ひきこもり、LGBTなど様々な不自由を抱える方々のサポートへ、ビジネスの領域を広げていく。

会社名 : 株式会社ゼネラルパートナーズ

本社所在地 : 〒104-0031 東京都中央区京橋 2-4-12 京橋第一生命ビル 3F

代表者 : 代表取締役社長 進藤 均

設立日 : 2003年 4月

URL : <http://www.generalpartners.co.jp/>

業務内容 : 障害者専門の人材紹介事業、求人情報事業、教育・研修事業、農業生産事業、調査・研究機関 など

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社ゼネラルパートナーズ 広報担当 : 田島

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-4-12 京橋第一生命ビル 3F

TEL:03-3270-5500

FAX:03-3270-6600

Mail:media-pr@generalpartners.co.jp